

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第42週 2025年10月13日（月）～2025年10月19日（日）2025年10月23日作成

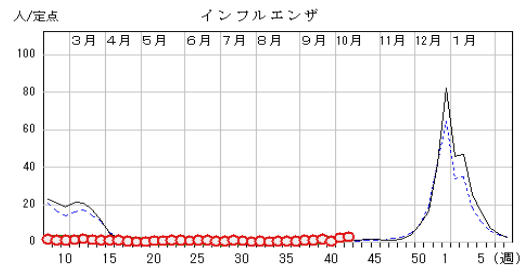
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第42週の報告数は143人で、前週より26人多く、定点当たりの報告数は2.86であった。

年齢別では、10歳未満（92人）、10～19歳（30人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、壱岐保健所（15.33）、佐世保市保健所（5.14）、県北保健所（4.00）であった。

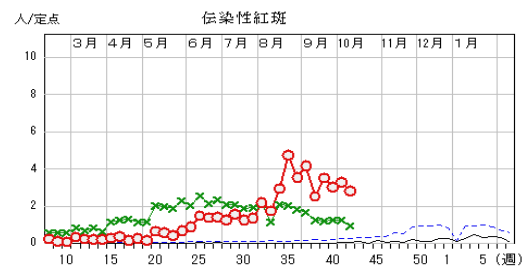


（2）伝染性紅斑

第42週の報告数は87人で、前週より15人少なく、定点当たりの報告数は2.81であった。

年齢別では、5歳（21人）、4歳（13人）、6歳（11人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（5.50）、県央保健所（4.80）、西彼保健所（4.00）であった。

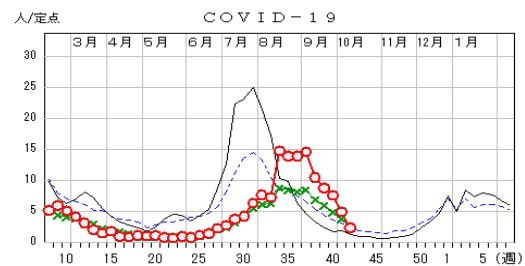


（3）新型コロナウイルス感染症

第42週の報告数は118人で、前週より133人少なく、定点当たりの報告数は2.36であった。

年齢別では、10～19歳（21人）、10歳未満（18人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、壱岐保健所（6.33）、佐世保市保健所（3.29）、対馬保健所（3.00）であった。



○ 当年(長崎県) ー 前年(長崎県)
× 当年(全国) - - 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：50、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数に変更されました）

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第42週の報告数は143人で、定点当たりの報告数は2.86となり、2週続けて増加しました。地区別に見ると、壱岐地区（15.33）は、注意報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

【伝染性紅斑】

第42週の報告数は87人で定点当たり報告数は2.81となり、11週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中6保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第42週の報告数は118人で、定点当たりの報告数は2.36でした。地区別にみると、壱岐地区（6.33）、佐世保地区（3.29）、対馬地区（3.00）は他の地区より多くなっています。5週続けて減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第42週までにSFTS11件、日本紅斑熱20件が報告されています。

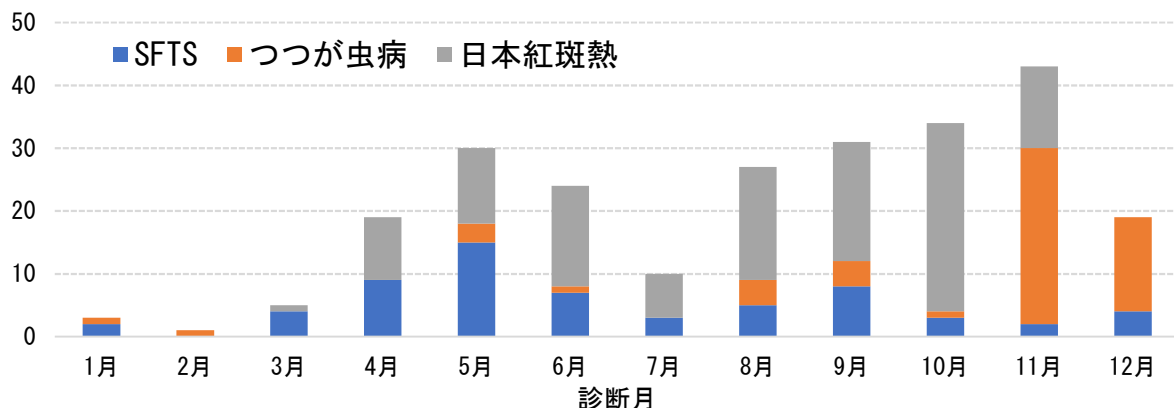
過去5年の県内の発生状況を見ると、10月に日本紅斑熱、11月につつが虫病的報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	8 (6)	6 (6)	6 (10)	13 (10)	13 (11)	11
日本紅斑熱	18 (12)	28 (21)	22 (15)	14 (13)	23 (18)	20
つつが虫病	11 (2)	14 (4)	7 (0)	15 (6)	11 (3)	0

※()は第42週までの発生件数

(件) 長崎県におけるダニ媒介感染症の月別患者報告数（2020年～）



☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう

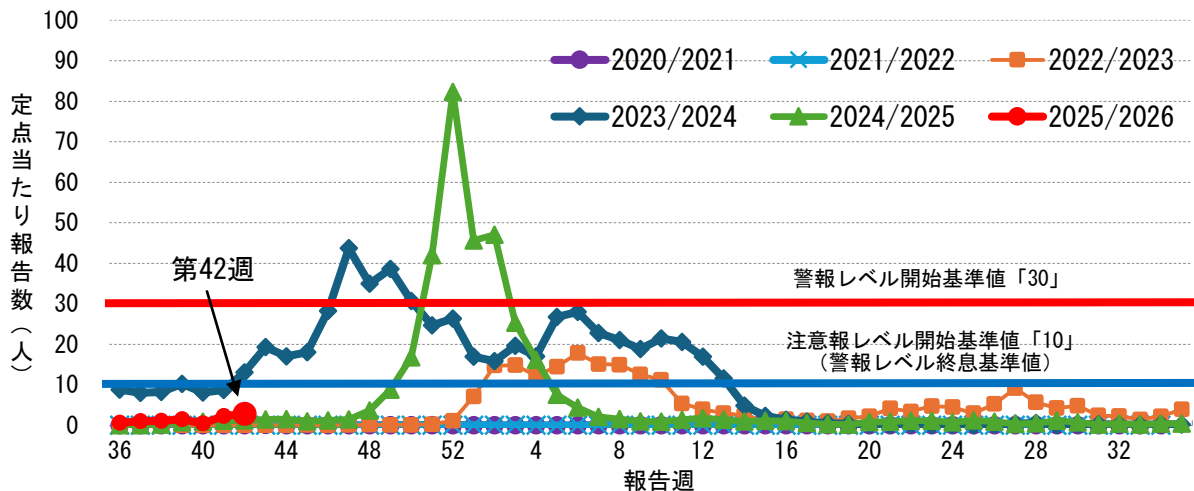
長崎県の第42週の患者報告数は143人で、定点当たり報告数は「2.86」でした。県全体では、第37週に流行の目安である「1.0」を超え、流行期入りしています。地区別では、壱岐地区（15.33）が注意報レベルの報告数となっています。

今後の動向に注意しながら、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

（参考）長崎県感染症情報センター 「インフルエンザ」

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansen-c/influenza-kansen-c/685285.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



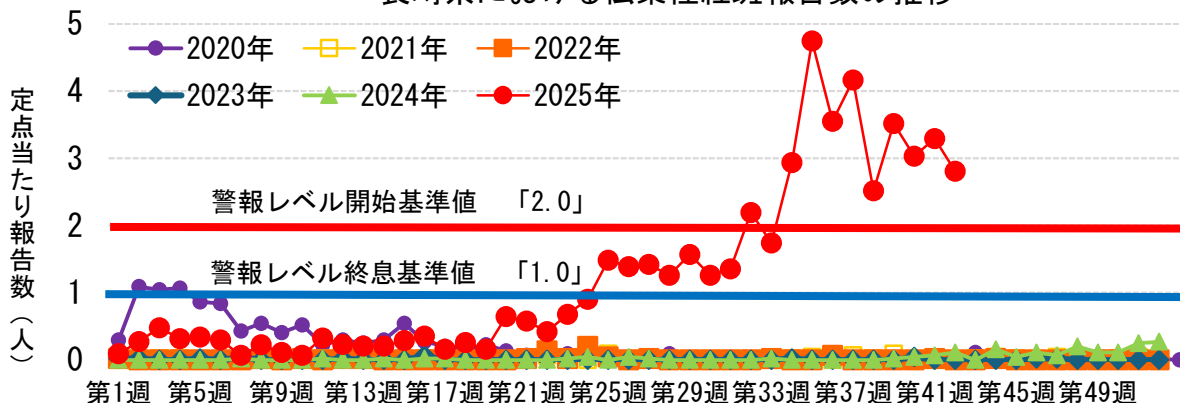
☆トピックス：伝染性紅斑が流行しています

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

2025年第42週の報告数は87人で定点当たり報告数は2.81でした。第32週に警戒レベル開始基準値「2.0」を超え、11週続けて警戒レベルの報告数となっています。地区別では、10保健所中6保健所において、警戒レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるといわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

長崎県における伝染性紅斑報告数の推移



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名）
無症状病原体保有者 男性（80代以上・1名）
3類感染症：報告なし
4類感染症：レジオネラ症 患者 男性（60代・1名）
5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 男性（60代・1名）
後天性免疫不全症候群 患者 男性（20代・1名）
侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（40代・1名）
百日咳 患者 男性（10歳未満・1名、30代・1名、40代・1名、70代・1名）
女性（10歳未満・3名、10代・1名、50代・1名、60代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別・週別発生状況 （第37～42週、9/8～10/19）

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数					
	37週	38週	39週	40週	41週	42週
	9/8～	9/15～	9/22～	9/29～	10/6～	10/13～
インフルエンザ	1.04	1.06	1.51	0.49	2.29	2.86
新型コロナウイルス感染症	14.61	10.51	8.76	7.57	4.92	2.36
RSウイルス感染症	2.65	3.42	2.19	1.35	1.71	1.39
咽頭結膜熱	0.23	0.32	0.29	0.52	0.52	0.35
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.61	1.26	1.39	1.29	2.19	1.13
感染性胃腸炎	3.61	2.45	3.13	2.42	1.94	2.10
水痘	0.48	0.77	0.29	0.23	0.32	0.06
手足口病	0.23	0.13	0.16	0.13	0.10	0.13
伝染性紅斑（リンゴ病）	4.16	2.52	3.52	3.03	3.29	2.81
突発性発しん	0.16	0.45	0.39	0.29	0.32	0.32
ヘルパンギーナ	0.39	0.13	0.19	0.03		0.06
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.03	0.10		0.03	0.03
急性出血性結膜炎	0.50					0.13
流行性角結膜炎	3.13	3.00	1.75	2.75	3.13	1.63
細菌性髄膜炎		0.08		0.08		0.08
無菌性髄膜炎			0.17		0.25	0.08
マイコプラズマ肺炎	0.83	0.58	1.17	0.58	1.33	1.33
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	76.12	61.20	65.16	63.45	64.18	55.04

（2） 疾病別・保健所管内別発生状況 （第42週、10/13～10/19）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾 患 名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	2.86	5.14	3.00	15.33	3.00	0.25	0.20	4.00	0.33		
新型コロナウイルス感染症	2.36	3.29	2.30	6.33	2.20	1.13	2.60	2.67	0.33	0.67	3.00
RSウイルス感染症	1.39	1.00	1.50	1.50	1.67	1.20	4.33	1.50			
咽頭結膜熱	0.35	0.50				0.40	0.33	3.00			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.13	1.50	1.67		1.67	0.80	2.33	0.50		1.00	
感染性胃腸炎	2.10	4.00	2.50		6.00	2.00		2.00			1.00
水痘	0.06		0.17		0.33						
手足口病	0.13		0.33			0.20					0.50
伝染性紅斑（リンゴ病）	2.81	5.50	2.17		4.00	4.80	3.67	2.00	0.50		
突発性発しん	0.32	0.50	0.50	0.50	0.33	0.40		0.50			
ヘルパンギーナ	0.06		0.17			0.20					
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.25									
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	1.63		0.33		1.00	4.00	7.00				
細菌性髄膜炎	0.08	1.00									
無菌性髄膜炎	0.08					1.00					
マイコプラズマ肺炎	1.33	4.00	1.67	1.00		1.00	2.00	1.00			2.00
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	55.04	63.86	105.40	50.33	75.60	49.88	20.40	35.33	3.00	12.00	23.33